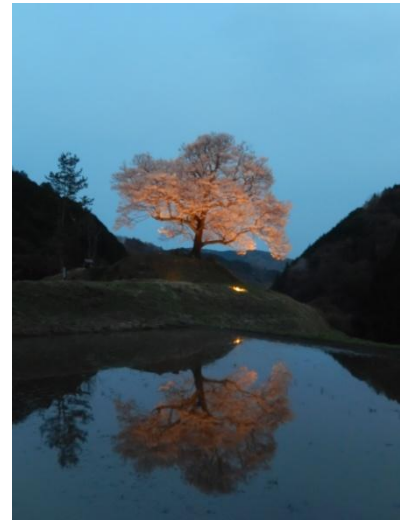


例年にない早い春の訪れで、4月初旬には校舎の周りの桜や、校区の神宮寺跡の大桜（エドヒガン）も満開となりました。神石小学校は昭和40年8月、福永・古川・高光の3小学校が統合して開校して以来、今年度で52年目を迎えました。校区は四季折々の自然美に満ち溢れた帝釈峡国定公園、緑豊かなスコラ高原、紅葉の美しさを誇る神龍湖など、自然体験学習をするのに恵まれた環境にあります。また、校庭の東南には、八尾城址公園が隣接し、生活科や総合的な学習で利用する他、マラソンコースや冬の雪遊び場としても使われ、すばらしい学習活動の場となっています。



神宮寺跡の大桜（エドヒガン）

平成30年度、9名の1年生が入学し、児童数67名、

教職員数15名でスタートしました。今年度は、広島県版「学びの変革」の全県展開の年となります。知識・技能を身に付けることを目的とした学びに加えて、子どもたちが自ら学びたいと思い、楽しみながらももっともっと考え、学んでいくという「主体的な学び」を促す教育活動がすべての学校で実践されることを目指しています。本校においては、学校教育目標を今年度も「自ら伸びる子・共に生きる子の育成」として、すべての教室で、「かしこい子」「たくましい子」「さわやかな子」が育つよう取組を進めます。「かしこい子」とは、自ら課題を見つけ、その解決に向け、みんなで力を合わせて取り組める子のことです。「たくましい子」とは、目標を持ち、達成に向けてくじけることなく努力する子です。「さわやかな子」とは、人の話をしっかり聞いて、明るく元気に返事をし、がんばらなければいけない時には、全力を出し切って感動を味わう子のことを言います。まさに、本校のめざしているところの子供像は、「主体的な学び」における子供の姿だと言えることができます。今年度においては、学校教育目標の達成のために新たな視点・方策を加えながら、学びの変革を推進してまいります。

また、本校は特色ある学校教育活動として、全校児童による伝統の「トランペット鼓隊」・心を育て豊かな生き方の基盤となる「読書活動」の充実・生活科及び総合的な学習の時間を中心とした仲間とともに協働的に学ぶ地域学習を行っています。研究テーマを『仲間とともに、確かな学びを創る子どもの育成～生活科・総合的な学習の時間を中心に、課題設定・課題解決力を高め、協働的に学ぶ学習を通して～』と設定し、今年度はさらに「課題発見・解決学習」を算数科授業においても取り入れ、授業研究を進めてまいります。



そのため、教職員自身も、倫理観と人間性を磨き合い、連携・協働しながら、子供一人一人のよさや輝きを見つけ、さらに磨き、輝かしていきながら、神石小の子供たちの意欲を、一丸となって育ててまいります。保護者、地域の皆様、更なるご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成30年4月

神石小学校長
爲平 祐嗣